

令和5年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立銀座中学校

学校の教育目標

きたえる学校 ○自ら考え 進んで学ぶ人になろう
 ○情操を高め 心豊かな人になろう
 ○心身をきたえ たくましい人になろう

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	「令和5年度学習力サポートテスト」において1学年では区の平均点より2.2ポイント高くなっており、2学年では区の平均点より0.5ポイント低く、我が国の言語文化に関する事項が4ポイント低い。3学年では区の平均より0.3ポイント低い。我が国の言語文化に関する事項が2.4ポイント程度低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートから読書量が少なく読み取る力がついていないことがわかる。 ・2年生の正答率は区の応用分野で平均0.5ポイント程度低く応用力が不足している。
数 学	「令和5年度学習力サポートテスト」において1学年は区の平均点より、2.1ポイント高くなっており、2学年でも、1.4ポイント高くなっている。3学年においても2.3ポイント高くなっている。領域別に見ても、全学年において正答率が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算問題を反復して行うことで基礎学力が定着しつつある。 ・体験的な学習活動を取り入れたことによって、正答率が区の平均を上回った要因と考えられる。
社 会	「令和5年度学習力サポートテスト」において1学年は区の平均点とほぼ変わらない。2学年は区の平均点を2.0ポイント低くなっている。3学年は区の平均をおよそ2.8ポイント上回っている。領域別に見ると、2学年は地理的分野の世界の姿と日本の姿、歴史的分野の中世の日本の正答率が、区平均よりおよそ5.0ポイント低くなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年は、授業に対する意欲はあるが、知識・技能の定着に課題がある。 ・3学年は授業に対する意欲が高く、習得した知識を活用する学習活動が取り入れられていると考えられる。
理 科	「令和5年度学習力サポートテスト」において1学年は区の平均点より、2.9ポイント高くなっており、2学年では、6.4ポイント高くなっている。3学年においては区の平均よりも5.1ポイント高くなっている。領域別に見ても、全学年において正答率が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が定着しつつあり、思考・判断・表現の向上がみられた。 ・実験や観察の結果を丁寧にまとめたことが、正答率が区の平均を上回った要因と考えられる。
英 語	「令和5年度学習力サポートテスト」において1学年は区の平均点より1.9ポイントほど高くなっており、2学年は1.0ポイント下回っている。3学年においては区の平均とはほぼ変わらない結果であった。領域別に見ると、2学年の「書	<ul style="list-style-type: none"> ・語形・語法や語彙の知識・理解などは反復学習で基礎学力が定着しつつある。 ・長文の読み取りでは英文を読むことで理解力を伸ばすこと

	くこと」が低いことが課題である。	ができることがわかった。 ・2学年の「書くこと」では文法事項をしっかりと習得し、授業を生かし取り組むことで伸びる可能性が十分にある。
保健体育	令和5年度東京都生徒体力・運動能力調査において持久力が全学年とも都、全国の平均より低い。また、1年女子と全学年男子は、合計得点も全国・東京都平均より低い。	・感染症予防で運動の機会が少なくなり日常生活での運動時間が減っている。継続的な運動を行っていく必要がある。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	「令和5年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	数学	「令和5年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	社会	「令和5年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年において、区平均を上回ること。
	理科	「令和5年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。
	英語	「令和5年度実施の学習力サポートテスト」で全ての学年、全ての領域において区の平均点を上回ること。特に2年生の領域の「書くこと」においては授業での積み重ねを生かしていく。
	保健体育	「令和5年度東京都生徒体力・運動能力調査」においてハンドボール投げが全学年とも都、全国の平均に近づける。
②授業改善		学期ごとに行う授業アンケートで ICT 機器を活用し、生徒の85パーセント以上が授業に意欲的に取り組んでいる結果になるように授業を行っていく。
③家庭との連携		年度末の学校評価で保護者アンケートの中で「学校との連携ができている」という項目で80パーセントが肯定的な回答になるようにする。
④体力向上		6月の体力テストの長距離走のタイムと比べ、3学期の長距離走の単元で1, 2年生の80パーセント以上の生徒が自己新記録を出せるように体力向上に取り組む。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	朝学習の時間を使用し、朝読書を行い継続して読書に取り組む姿勢を育む。漢字のドリルを定期的に授業で行っていく。
数学	朝学習の時間を使用し、タブレットのドリルパークで基礎基本に取り組んでいく。週末に復習プリントの課題をだし、学習の定着を図る。
社会	定期テスト以外に単元ごとのテストや社会情勢のテストを行う。また、知識だけではなく、授業の中でタブレットを使用した発表などを取り入れ知識を活用していく授業を行っていく。
理科	実験・発表の機会を増やし知識だけでなく体験して考える力を養っていく。また、学習後に復習プリントを行い繰り返し書くことで学力の定着を図る。
英語	読解への苦手意識をなくすために、レベルをつけてスモールステップ学習をする。また、授業の中で文法習得後に書くことで学習の定着を図る。
保健体育	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行っていく。学年や単元によって強度は変えていく。球技を取り入れ投げの学習を増やしていく。
②授業改善	
取組Ⅰ	4月当初に本校の指導教諭が講師となり、評価方法やICT機器を使用した授業方法の研修会を行い、学校全体で情報共有を行い授業改善を行っていく。
取組Ⅱ	今年度の研究発表に向けICT機器を活用し、9つのマトリックスに分けて研究を行う。また、基礎学力の向上を目指し、校内研修会を通して教員の授業を参観し意見交流する場面を設定していく。
③家庭との連携	
取組Ⅰ	SNSやタブレット利用における家庭ルール作りを家庭に浸透するよう、委員会だけではなく、学校全体として取り組み、保護者会やClassroomで伝えていく。
取組Ⅱ	担任から、生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況などを伝え、家庭との連絡を多く取り、連携した指導を行う。
④体力向上	
取組Ⅰ	体力向上のために毎回の授業の中で筋力トレーニングを行う。学年や単元によって強度は変えていく。
取組Ⅱ	授業及び外部講師による講演会等により、体力の向上とともに自己の心と体の健康について理解を深めるための学習活動を行う。

↓

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	落ち着いて授業を受ける雰囲気生まれ、生徒の学習意欲が高まった。	言語に関する知識や読みの技能の定着が課題である。特に読みの技能は、次年度朝読書の充実をすることにより、技能を高めていく。
	数学	週末課題において、主体的に学習に取り組み、基礎的な知識・技能を繰り返し学習することを促した。その結果、授業における学習意欲が高まり、知識・技能の定着が見られた。	数学的な思考力・判断力・表現力の向上が課題である。授業中に、生徒の学習意欲が高まる課題を設定し、協働して問題解決ができるような場面を設ける。
	社会	タブレットを使用し、自分の考えをまとめ、発表する機会をすることにより、社会的事象に対する意欲が高まった。	基礎的な知識・技能の定着が課題である。ドリルパーク等のドリルソフトを活用し、知識・技能の定着と、学校の授業における思考力・判断力・表現力の両立を図る。
	理科	実験の回数を増やし、考察する機会を増やした結果、科学的な事象に対する意欲が高まった。	知識・技能の定着や、思考力・判断力の向上が課題である。考察の方法や考察したことの表現方法を授業の中で指導し、定着させる。
	英語	授業の見通しをもたせることにより、生徒がやるべきことを把握し、主体的に学習に取り組むことができるようになった。	習得すべき事象の獲得を重視するあまり、思考力・判断力・表現力の向上が不十分だった。知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力の育成とのバランスを図る。
	保健体育	筋力トレーニングを継続して取り組んだ結果、生徒一人ひとりの筋力が上がった。	筋力トレーニングを継続して行った結果、筋力が上がったが反面、持久力に課題がある。長距離走の授業で、継続して運動する時間の確保を行う。
② 授業改善	校内研修の機会を増やし、各教科で研究授業を行った結果、各教員の授業改善に対する関心や意欲が高まった。それが、生徒の学習意欲向上につながった。	研究発表会を行った後でも、各教科間で授業観察を行い、教員各自が授業改善の意識をもつ。授業改善週間を1ヶ月設定し、教員相互の授業を参観する。	
③ 家庭との連携	三者面談を通じて、生徒の家庭学習に関する情報交換を教員と保護者相互に行い、生徒の家庭学習に対する意欲向上につなげた。	提出物の未提出者について、毎回決まった生徒の名前が挙がる。改善策として、ワークやドリル類の短いスパンにおけるチェックを行い、誰でも取り組める家庭学習になるように改善する。	
④ 体力向上	筋力トレーニングを継続して行った結果、筋力がついた生徒が多く見られた。	持久力に課題があることから、長距離走の授業内で継続して運動する時間を確保する。	